

平成26年度日本地すべり学会賞受賞者紹介

【技術報告賞】岡本有生氏（北海道夕張郡栗山町役場）

●受賞技術報告：地すべり活動を表す樹木の傾き－白神山地を例として－（第50巻3号2掲載）

●著者：岡本有生・檜垣大助

●受賞理由：

本技術報告はブナを主とする落葉広葉樹林に覆われる白神山地において、雪圧の影響のない高さでの樹幹の傾きとそれらの分布、樹齢を精力的かつ詳細に調査し、樹幹の傾きと地すべり運動の活動形態および発生時期との関係を考察した労作といえます。樹木の傾きと年輪年代学を組み合わせて地すべりの動態や活動時期を推定する方法は古くから行われてきました。しかしながら、それらの研究は直立性の高いスギ・トドマツなどの針葉樹を対象としており、ブナをはじめとする落葉広葉樹を対象にした事例はほとんどありませんでした。本技術報告では、ブナのDBH（胸高直径）より推定した樹齢、樹幹の傾きの大きさと方向、並びにこれらの分布状況について、現地において簡便に確認できる項目を用いて解析を行い、ブナを対象とした調査も地すべりの活動範囲や時期の推定に有効であることを明確に示しました。ブナ群落は地すべりが多発する東北日本の日本海側気候の地域に広く分布しており、本調査手法はこれまで見逃されてきた落葉広葉樹林からなる斜面の地すべり発生危険箇所を把握する上で大いに役立つと考えられます。従来の調査手法を応用して調査対象を落葉広葉樹林にまで拡張し、その有効性を示した点は学術的技術的に有意義であり、研究の着想の良さと独創性も認められます。以上のことから技術報告賞として相応しいと評価いたしました。

● 略 歴 ●

2010年3月 弘前大学農学生命科学部卒

2012年3月 同大学院農学生命科学研究科修了



【査読者賞】濱崎英作氏（アドバンテクノロジー株式会社）

●受賞理由：

濱崎氏は地質学の知識を基盤とし、さらには地すべり対策技術や数値解析をも包含する広範な知識と実務経験を有しておられます。これら広範な知識と専門性によって、本誌に投稿された原稿の査読に多大なる貢献をされました。例えば最近の10年間で、危険度評価、GIS、FEM浸透流解析、デジタル画像処理、盛り土斜面の動態解析、パターン識別解析、AHP法等、多岐にわたる投稿原稿12編の査読を担当していただきました。編集委員会でも新しい分野あるいは学際的な内容の投稿原稿を受け付けた際には、決まって濱崎氏が査読者の候補に推挙されておりました。濱崎氏の査読は、原稿の論理構成の点検に主眼をおきながらも学術的な新規性や独創的な着想を積極的に評価し、公正かつ的確な助言と有益な修正提案に定評があります。査読によって数々の原稿が大幅に改善され、質的向上が図られた点で本誌への貢献は絶大といえます。また業務多忙の中、査読期間を厳守いただき、円滑な査読の進行にもご協力いただきました。以上より、濱崎氏の厳正な査読による本誌の学術的価値向上への貢献は、査読者賞に相応しいと評価いたしました。

● 略 歴 ●

1979年3月 熊本大学理学部卒

1981年3月 同大学院理学研究科修了

2007年3月 京都大学大学院工学研究科

博士後期課程修了

技術士（応用理学部門、総合技術監理部門）、博士（工学）

